

## テーマ2

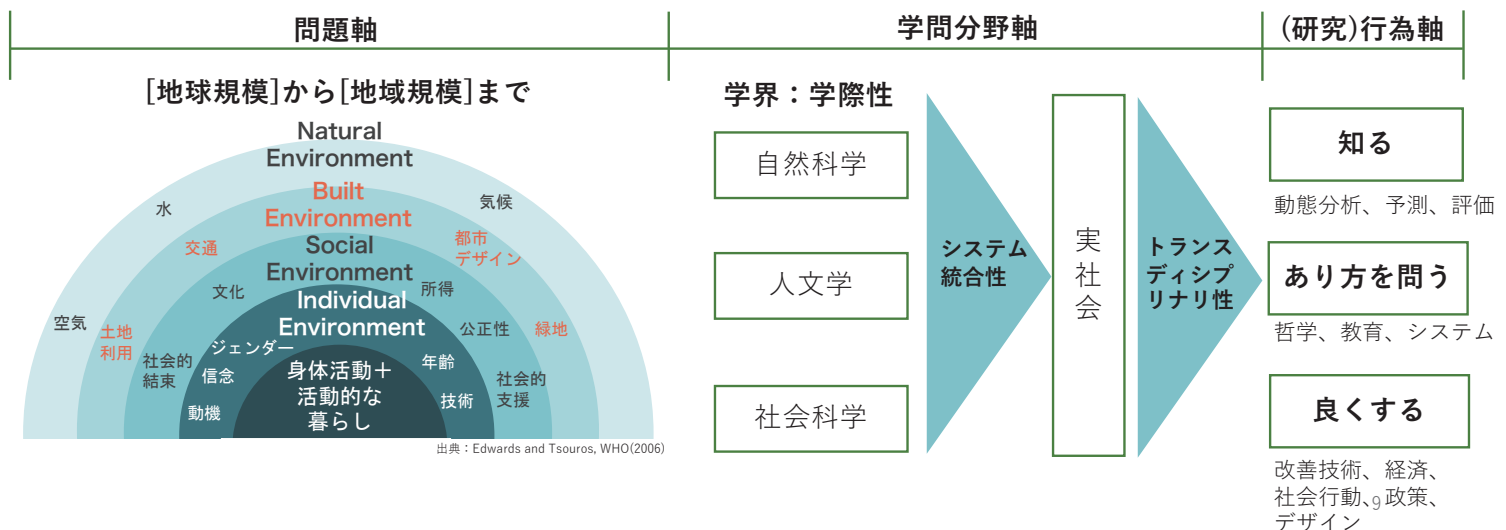
# 学問分野としての都市計画とは

### 登壇者

早稲田大学	佐々木葉	教授
國學院大学	大門 創	准教授
中央大学	三浦詩乃	准教授

## 環境学の俯瞰(日本学術会議,2014年)

- 環境学分野において都市計画学が扱う内容（都市マスタープラン等）への言及  
“地域規模の問題に対する研究行為”に該当
- 「問題軸」「学問分野軸」「(研究)行為軸」の3軸で定義



## 創刊号、40・50周年学会誌より

### 日本都市計画学会設立（1952年）

石川栄耀氏

#### “都市計画未だ成らず”

[当時] 戦災復興事業進捗, 土地区画整理法(1954年)

『都市計画及び国土計画 その構想と技術』：**都市構成の技術試論**(1941年)

都市史、地理的諸相への着目、都市構成理論の必要性、診断手法

法財(都市経営)、都市内容の配分（計画区域）、都市整備手法、都市内容の組成(インフラ)

地方・国土計画

参考文献 中島 直人：石川栄耀による都市計画の基盤理論の探求に関する研究『都市計画及び国土計画』に着目して、都市計画論文集, 42, 3, pp. 403-408, 2007

## 計画技術と都市学の接近

都市に対する”科学の樹立”と”生活感情の感得”

“都市計画家(フィジカル・プランナー)”の地位確立

10

## 創刊号、40・50周年学会誌より

### 40周年誌(1991年)

70年代以降 「まちづくり」提唱、コミュニティ施策

80年代 都市計画法改正(地区計画制度等)

[当時] バブル景気の低迷

都市計画法改正(都市マス)

### 都市計画(家)像

伊藤滋先生

○自然とされる**流れを是認しないアクション**（空間コンセプト）を提案できる

○市民との接点、役人から民間へ：“1人1人の主張を包含” “**やわらかさ**”

### 都市計画家とは“論理の飛躍”を伴う ⇔ 技術と研究の乖離

川上秀光先生

○コンセプトやモデル（仮説）の論拠を説明し切ることが難しい。

○計画成果の是非/見直しには20年かかる。

11

創刊号、40・50周年学会誌より

50周年誌(2001年)

[当時] 阪神淡路大震災(1995年) 復興 、景観法(2004年)

研究(投稿論文)の傾向

- ・ 国土計画、産業、(バブル崩壊を期に)地価・土地問題をテーマにした研究が減少  
⇔ **景観・都市デザイン**をテーマにした研究が増加
- ・ 阪神淡路大震災で**住民・市民研究**の増加、緑地計画に注目
- ・ **都市像**を語る研究から  
**問題解決**の提示 (マネジメントなど**ノンフィジカル方策**へ)  
\*学会におけるフィジカルプランニング業務終了

現在の学会

[2000年以後] グローバル化・デジタル化の更なる進行  
災害の頻発化・複合リスク, SDGs  
**人口減少社会への転換, 地方公務員数減少。都市再生特措法(2002年-)**  
**研究者：評価の定量化・国際競争。AI、衛星画像、アプリ、センサリング等 人・空間の”超解像化”**

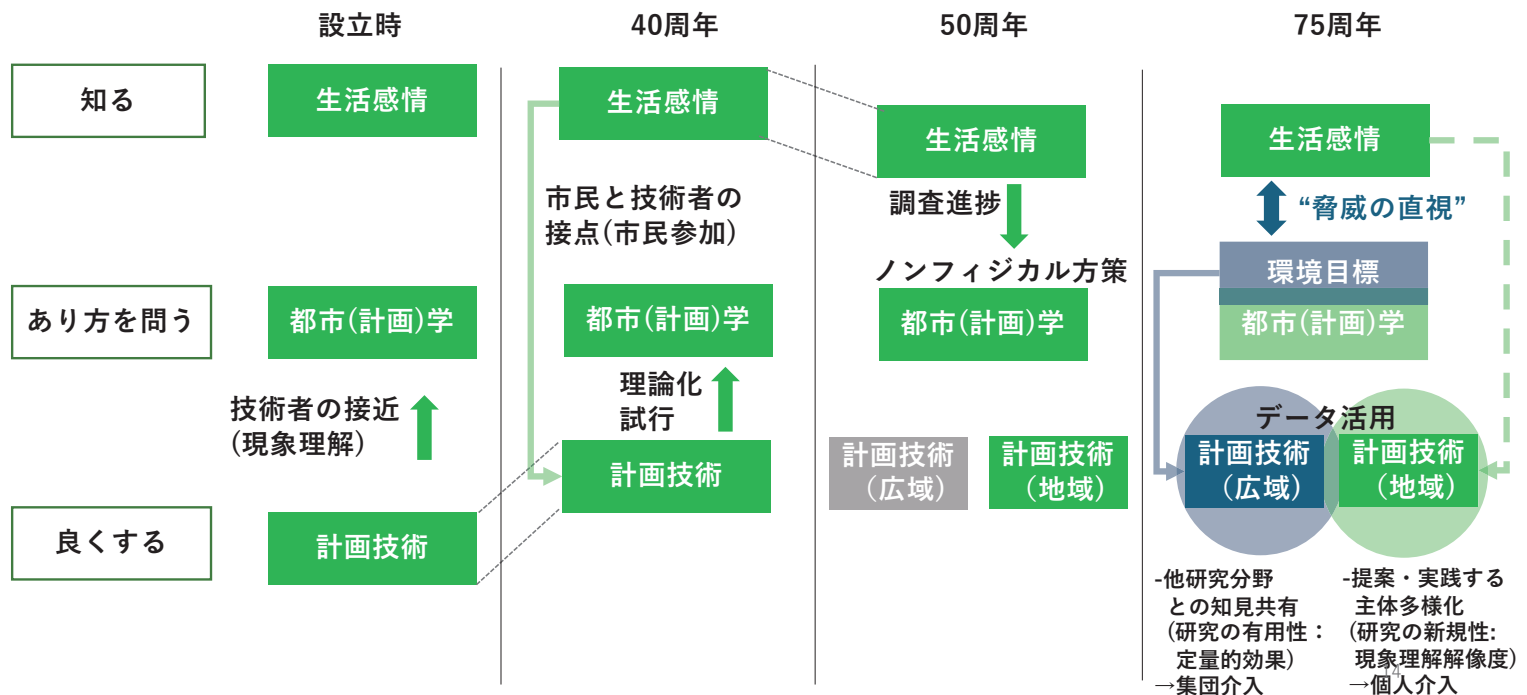
企画調査委員会、編集委員会、学術委員会、事業委員会、国際委員会のほか

<div>社会連携委員会</div> <div>→</div> <div>専門家支援・高校教育</div>	<div>スマートシティ特別委員会</div> <div>→</div> <div>都市のスマート化</div>
<div>防災特別委員会</div> <div>→</div> <div>東日本大震災以後のグローバルリスク</div>	<div>環境特別委員会</div> <div>→</div> <div>都市計画（都市政策）を通じた緩和・適応策</div>
<div>都市計画継続教育制度推進特別委員会</div> <div>→</div> <div>Continuing Professional Development</div>	<div>都市構造評価特別委員会</div> <div>→</div> <div>都市構造可視化</div>
<div>低炭素社会実現に向けた特別委員会</div> <div>→</div> <div>自治体・民間による低炭素都市モデル</div>	<div>都市計画法50年・100年企画特別委員会</div> <div>→</div>

## 研究行為軸からみる現在の都市計画学

### ①計画技術アプローチの分化

### ②社会や個人への「脅威」への応答技術：脅威の直視に伴い、ようやく生活感情が（広域）都市像にも向けられる



## 「現状非悪化」都市像の先へ

### ①現在：知り・良くする学際的インプット

→ フィジカルプラン再興の可能性



### ②前向きにあり方を問う場があるか？

= 脅威に訴えるのみでなく  
都市構想力を磨き・伝える

[討議内容] 「都市計画学」で重点的に扱うべき内容とは。教育・普及に向けて学会がなすべきこと。

論点1 都市計画家と都市研究者の育成の場：都市像の構想力の育み方とは

学際化→大学教育と実務者教育で扱うべき領域が不明瞭

[大学] 領域の全体像俯瞰

現状：伝統的な計画学、教員の専門分野周縁での研究力研鑽

[実務者]計画技術の標準化の先へ

これまでは制度理解支援→AIで代替 \*『都市計画マニュアル』（2002年 ,都市計画運用指針）

- ▶学会の役割案
  - ・行政職員の人材育成
  - （会員アンケート） ・人材多様性を高めるネットワーキング
  - ・オルタナティブ（対象とする空間や政策）の言論

論点2 研究者のプロジェクトへの関わり方と成果評価の”ものさし”とは

“技術”、“実装の場”提供者と研究者との結びつき：産学連携

技術や実装の場の提供者

”流れを読む”「民間」

（ショートタームの定量的成果）



モデルの提案者

”流れを是認しない”「研究者」

（価値自由的、ロングタームも）

- ▶学会の役割案
  - ・国際的視野からの研究マッピング(データベース)とその継続的なアップデート